

World Wide Views in Osaka 結果報告

2009.11.26

文責：秋山泰洋

I. 経緯

2009 年前期に行われた大阪大学コミュニケーションデザインセンター（以下 CSCD）の小林傳司教授による授業『科学技術コミュニケーション理論と実践』に参加したことに端を発しています。そこで World Wide Views in Japan(以下 WWV)の進行・内容に関する議論やワークショップが行われました。20 名ほどの受講生からなる講座で、3 グループに分かれて取り組みました。その後小林教授から「学生が主体となって、学生による WWV をしてみよう」という提案がなされました。それにより WWV in Osaka が生まれ、実践授業の受講生らが中心となり WWV in Osaka 学生実行委員会が発足しました。また、大阪大学環境サークル GECS をはじめとする有志も運営側として参加しました。



II. 概要

WWV in Osaka は、2009 年 9 月 26 日に京都で開催された WWV in Japan を元に学生の立場から地球温暖化問題をどのように考えているのかを知り、発信することを目的とし、学部や研究科の枠を越えて様々な学生が地球温暖化について議論しあい、大学側への提言をまとめていくという試みとして開催されました。地球温暖化問題をテーマに様々な専門を持つ学生同士で議論し、議論の最後には、学生の立場から国の環境対策に対する提言と大学側への提言をまとめていただきました。また本家 WWV in Japan と同資料で行うため一般市民と学生との間の結果比較のための資料としても行いました。



Ⅲ. WWV in Osaka のプログラム

2009年9月30日大阪大学イ講堂で29名の学生を対象に以下のプログラムで開催しました。

開会（イントロダクション）
第1 テーマセッション：気候変動と、それがもたらす結果
第2 テーマセッション：長期目標と緊急度
第3 テーマセッション：温室効果ガス排出への対応
第4 テーマセッション：技術および適応策のコスト
提言セッション
閉会（今後に向けて）

テーマセッションは元企画 WWV in Japan を元に以下のように行われた。

1. テーマの紹介とビデオの上映
2. 問い（[WWV 参加者への質問]）の提示と説明
3. グループごとのディスカッション
4. 各参加者の回答の投票（第四テーマセッション後すべてのセッションの投票結果報告を行った）

提言セッションでは以下の二つのテーマについて各グループ（全6グループ）でメッセージをまとめていただいた

・COP15 政府交渉代表団に向けて（各グループで文字数制限なしで文章化していただいた）

・大学生として大学側へ向けて（各グループで考えをまとめていただいて摸造紙一枚に意見をまとめていただいて個別に発表、その後で投票によって会全体としての提言を決定した）

Ⅳ. テーマセッション結果報告

1. 第1 テーマセッション：気候変動と、それがもたらす結果

【問い】

質問 1.1 この WWViews に参加する以前に、気候変動とその影響について、どの程度知っていましたか。

- ①全く知らなかった
- ②ほとんど知らなかった
- ③ある程度、知っていた
- ④よく知っていた
- ⑤わからない／答えたくない

質問 1.2 気候変動問題とその影響について、さまざまな予測をご覧いただきましたが、あなたは今、気候変動にどれほど不安を感じていますか。

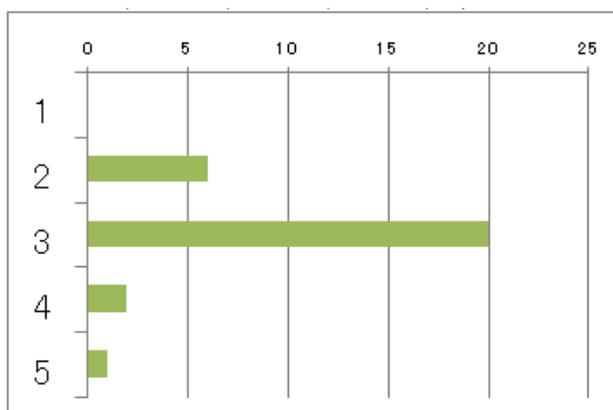
- ①とても不安だ
- ②かなり不安だ
- ③少し不安だ
- ④まったく不安ではない
- ⑤わからない／答えたくない

投票結果

以上二つの質問に対する参加者の回答の投票結果は次のようになった。

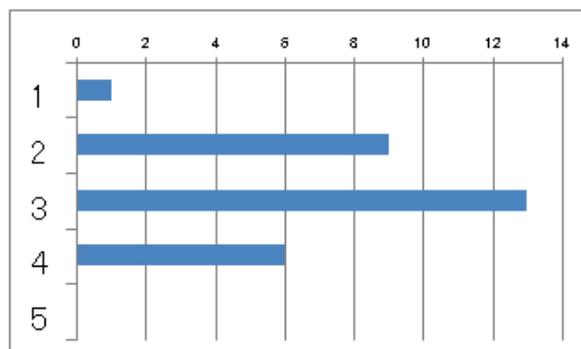
質問 1.1 この WWViews に参加する以前に、気候変動とその影響について、どの程度知っていましたか。

番号	項目	合計
1	まったく知らなかった	0
2	ほとんど知らなかった	6
3	ある程度、知っていた	20
4	よく知っていた	2
5	わからない／答えたくない	1



質問 1.2 気候変動問題とその影響について、さまざまな予測をご覧いただきましたが、あなたは今、気候変動にどれほど不安を感じていますか。

番号	項目	合計
1	とても不安だ	1
2	かなり不安だ	9
3	少し不安だ	13
4	まったく不安ではない	6
5	わからない／答えたくない	0



2. 第2テーマセッション：長期目標と緊急度

【問い】

質問 2.1 新たな国際的な気候変動の対策の合意を、どの程度、急ぐべきだと思いますか。

- ①新たな対策への合意はすぐ必要であり、COP15で合意されるべきだ
- ②新たな対策への合意は重要だが、2、3年後でもよい
- ③気候変動の深刻な影響が出るまで、合意は様子を見てもよい

- ④新たな枠組みは必要だと思わない
- ⑤わからない／答えたくない

質問 2.2 COP15 で新たな対策が合意された場合、あなたの国の政治家は積極的に参加すべきだともいますか。

- ①はい
- ②いいえ
- ③わからない／答えたくない

質問 2.3 気温の上昇を抑えるために、どのような長期目標を立てるべきだと思いますか。

- ①目標は必要ない
- ②気温が 2℃以上、上昇してもかまわない
- ③気温の上昇は、2℃以内に抑えるべきだ
- ④気温の上昇は、現在のレベルで抑えるべきだ
- ⑤産業革命以前のレベルに戻すべきだ
- ⑥わからない／答えたくない

質問 2.4 新たな合意では、約束を果たさなかった国に対して、罰則規定を設けるべきだと思いますか。

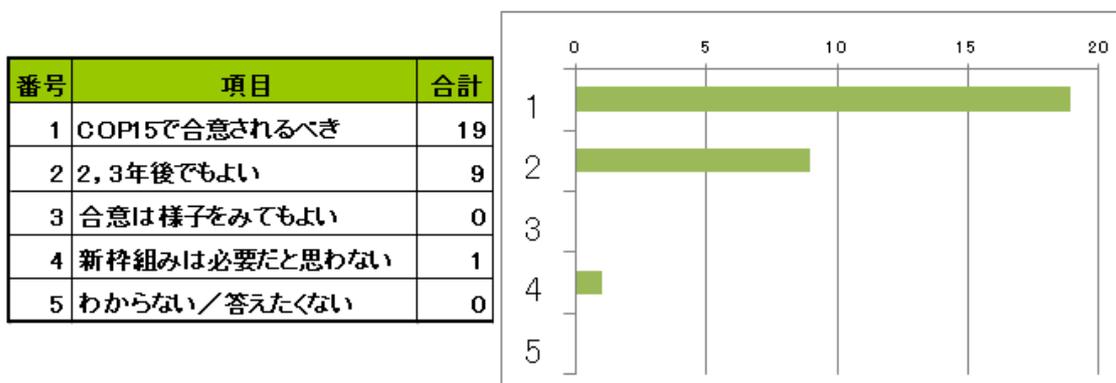
- ①厳しい罰則を設け、約束を守らない国が得をすることのないようにすべきだ
- ②意味ある罰則を設けるべきだ
- ③罰則は設けるが、形式的なものにとどめるべきだ
- ④罰則を設けるべきでない
- ⑤わからない／答えたくない

投票結果

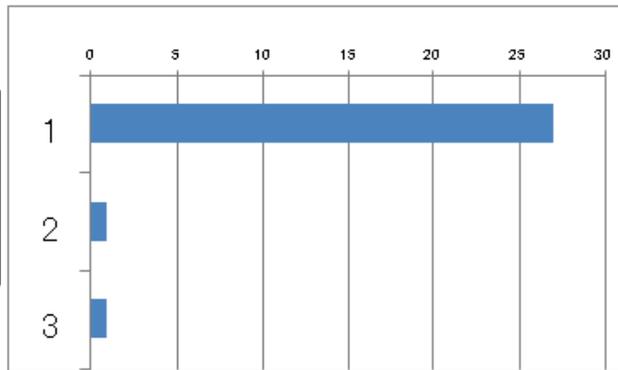
以上四つの質問に対する参加者の回答の投票結果は次のようになった。

質問 2.1 新たな国際的な気候変動の対策の合意を、どの程度、急ぐべきだと思いますか。

質問 2.2 COP15 で新たな対策が合意された場合、あなたの国の政治家は積極的に参加すべきだともいますか。

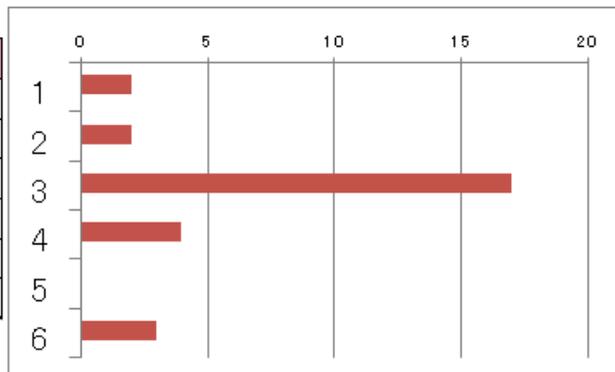


番号	項目	合計
1	はい	27
2	いいえ	1
3	わからない/答えたくない	1



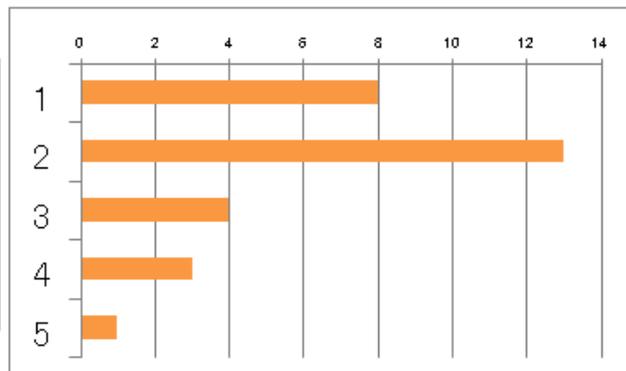
質問 2.3 気温の上昇を抑えるために、どのような長期目標を立てるべきだと思いますか。

番号	項目	合計
1	目標は必要ない	2
2	2℃以上、上昇してもかまわない	2
3	2℃以内に抑えるべきだ	17
4	現在のレベルで抑えるべきだ	4
5	産業革命以前のレベルに戻すべきだ	0
6	わからない/答えたくない	3



質問 2.4 新たな合意では、約束を果たさなかった国に対して、罰則規定を設けるべきだと思いますか。

番号	項目	合計
1	厳しい罰則を設けるべき	8
2	意味ある罰則を設けるべき	13
3	形式的な罰則にとどめるべき	4
4	罰則を設けるべきでない	3
5	わからない/答えたくない	1



3. 第3テーマセッション：温室効果ガス排出への対応

【問い】

質問 3.1 「付属書 I 国」は、2020 年までにどの程度、温室効果ガスを削減すべきだと思いますか。

- ①40%以上削減すべきだ
- ②25-40%の間で削減すべきだ
- ③25%未満にすべきだ
- ④削減目標は必要ない

⑤わからない／答えたくない

質問 3.2 「付属書 I 国」以外で、かなりの経済水準を持つ国、または排出量の多い国の短期的削減目標は、どうあるべきだと思いますか。

- ①「付属書 I 国」と同じ削減目標にすべきだ
- ②排出を削減させるべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、排出量をより大きく削減すべきだ
- ③排出の増加を制限すべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、排出量の増加をより厳しく制限すべきだ
- ④排出量をコントロールするという約束を求めるべきでない
- ⑤わからない／答えたくない

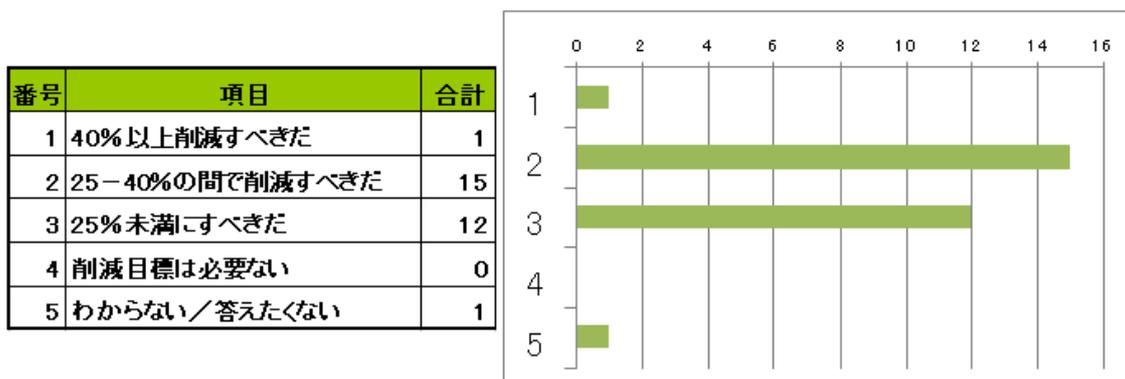
質問 3.3 低所得の発展途上国の短期削減目標はどうあるべきだと思いますか。

- ①「付属書 I 国」と同じ削減目標にすべきだ
- ②排出の削減が図られるべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、削減量を大きくしていくべきだ
- ③排出の増加を制限することが図られるべきであり、それらの国の経済水準が高くなり、排出量が増えるのに応じて、制限量を大きくしていくべきだ
- ④排出量をコントロールするという約束を求めるべきでない
- ⑤わからない／答えたくない

投票結果

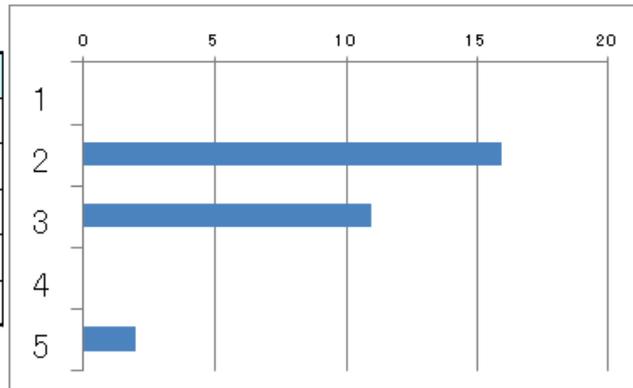
以上 3 つの質問に対する参加者の回答の投票結果は次のようになった。

質問 3.1 「付属書 I 国」は、2020 年までにどの程度、温室効果ガスを削減すべきだと思いますか。



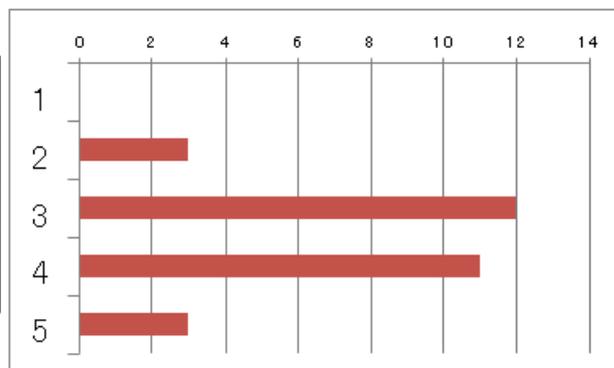
質問 3.2 「付属書 I 国」以外で、かなりの経済水準を持つ国、または排出量の多い国の短期的削減目標は、どうあるべきだと思いますか。

番号	項目	合計
1	付属書 I 国と同じ削減目標	0
2	排出を削減させるべき	16
3	排出の増加を制限すべき	11
4	約束を求めるべきでない	0
5	わからない／答えたくない	2



質問 3.3 低所得の発展途上国の短期削減目標はどうあるべきだと思いますか。

番号	項目	合計
1	付属書 I 国と同じ削減目標	0
2	排出を削減することを図るべき	3
3	排出増加の制限を図るべき	12
4	約束を求めるべきではない	11
5	わからない／答えたくない	3



4. 第 4 テーマセッション：技術および適応策のコスト

【問い】

質問 4.1 化石燃料の価格を上げるべきだと思いますか。

- ①はい、すべての国で上げるべきだ
- ②はい、ただし「付属書 I 国」と、かなりの経済水準を持つ国、または排出量が多い国で上げるべきだ。
- ③はい、ただし「付属書 I 国」でのみ上げるべきだ
- ④いいえ、価格を統制すべきでない
- ⑤わからない／答えたくない

質問 4.2 発展途上国が気候変動への緩和策や適応策を講じるのを経済的に支援するために、国際的な基金を設けるべきだと思いますか。

- ①はい
- ②いいえ
- ③わからない／答えたくない

質問 4.3 新たな取り決めでは、誰が費用を負担することにすべきだと思いますか。

- ①すべての国が負担すべきだ

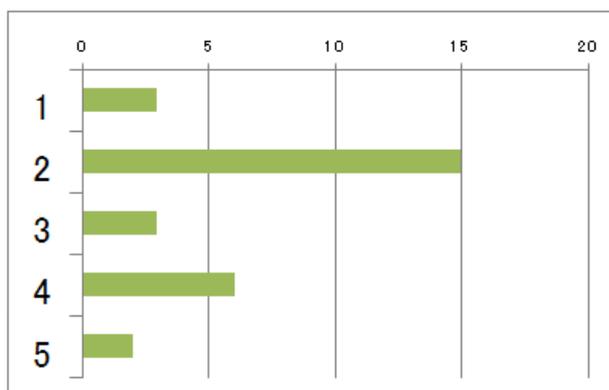
- ②最貧国を除く、すべての国が負担すべきだ
- ③「付属書I国」が負担すべきだ
- ④特に決める必要はない
- ⑤わからない／答えたくない

投票結果

以上3つの質問に対する参加者の回答の投票結果は次のようになった。

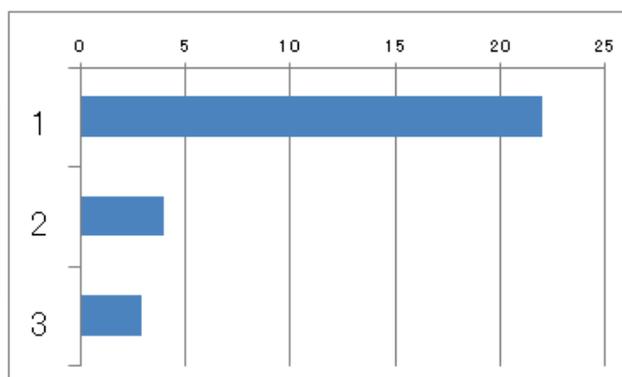
質問 4.1 化石燃料の価格を上げるべきだと思いますか。

番号	項目	合計
1	すべての国で上げるべき	3
2	付属書I国と高経済水準、高排出量	15
3	付属書I国のみ	3
4	価格を規制すべきでない	6
5	わからない／答えたくない	2



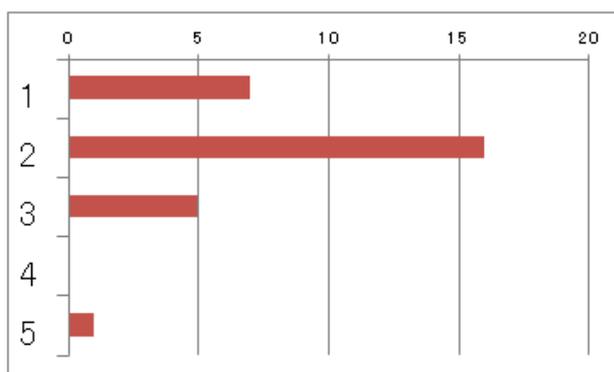
質問 4.2 発展途上国が気候変動への緩和策や適応策を講じるのを経済的に支援するために、国際的な基金を設けるべきだと思いますか。

番号	項目	合計
1	はい	22
2	いいえ	4
3	わからない／答えたくない	3



質問 4.3 新たな取り決めでは、誰が費用を負担することにすべきだと思いますか。

番号	項目	合計
1	すべての国	7
2	最貧国を除く、すべての国	16
3	「付属書I国」	5
4	決める必要はない	0
5	わからない／答えたくない	1



V. 提言セッション結果報告

1. COP15 政府交渉代表団に向けて

各グループそれぞれに短い提言メッセージをタイトル付きでまとめていただいた。

グループ	タイトル	内容
1	参加国の拡大と柔軟性	新たな気候変動の枠組みに、地域差や経済力の差を考慮した上で、途上国も含めた多くの国々に参加することを求める。ただし、この枠組みの参加には国の状況に応じた離脱などのような柔軟な対応を認める。
2	環境を市民レベルへ	削減目標を達成するために、私達が具体的に何をすればいいのか、何を我慢すればいいのか、市民レベルに落として教えて欲しい。
3	「目標」から「実現」へ	目標を立てるだけではイミがない。実現を可能にするシステム作りを早急に。罰則規定等を利用して対策をした方が得をするシステムづくりを。全ての国が協力することが必要だが、負担には大きな傾斜をつける必要がある。
4	優先順位と役割分担	様々な分野の専門家の意見をふまえて多角的な分析を行い、環境問題に取り組む順位を自国の状況をふまえて決定しましょう。途上国は新エネルギーを取り入れた社会システムづくりをする。また、将来、先進国になることを視野に入れ、自国の国際的立場を考えるべきである。
6	世界共通削減指標と制度	GDP、CO ₂ 排出量、人口等に基づいた削減率指標を世界共通でつくり、長期目標に向け、2、3年ごとに段階的に目標を検討する。また、発展途上国への支援にはアセスメントの実施と制度設計を行う。
7	議論の前提を再確認	将来の自分たちはどうありたいか、将来の“あなたたち”のために何ができるかを常に意識し、数多くある守るべきもの、尊重すべき考え方に、どのような優先順位で取り組むかを自覚し影響をける全ての人々が情報を共有し、意思決定を批判できるようなシステムを構築してほしい。

2. 大学生の立場として大学側へ向けて

各グループ議論を経て模造紙一枚に収まるようにタイトル付きでまとめていただいた。その後各班、代表者にプレゼンテーションをしていただき投票し“会”としての意見をまとめた。

グループ	タイトル	内容
1	Eco University	<ul style="list-style-type: none">・建物自体のエコ化（太陽発電・屋上の緑化・窓の拡大・照明のLED化等）・技術開発（ソーラー、核融合等の新エネルギー分野）促進（研究助成金増加）・エコアイデアコンテストの実施・環境に関する授業とその市民公開
2	阪大 eco ブランド	<ul style="list-style-type: none">・eco なら阪大→「eco 阪」というブランド作り・各研究室が分野の垣根を越えて協力しあう・環境商品を生協で扱い、学生の使用を促進する等
3	知る→取り組む→発信する	<ul style="list-style-type: none">・知る（学部を越えたセミナーの開催・専門家と非専門家の意見交換会・学内環境調査）・取り組む（省エネ助成金制度・弱冷房徹底・デポジットシステム強化・車→自転車通勤へ）・発信する（一般人にむけたイベント開催・各学部協働で疑似議定書作成・大学の看板を掲げた上で環境会議へ参加する）
4	大学エコパーク計画	<ul style="list-style-type: none">・大学を小さな実験場へ・目的（様々な分野の学生による多様なアイデア公募促進・エコの視覚化の推進）・節水や発電、リサイクルの全てを体感できるような設備を導入する

6	大学発の提言作成	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な大学がネットワークを構築し各々が少しずつ資金（総長裁量経費等ある程度自由に使えるものから）と人材（各大学の環境をテーマに研究している研究室から少人数）を出資する研究グループの構築し、提言と報告（情報収集や政策分析等）を行う ・その際に地域のコミュニティを巻き込んだり、企業の研究参画を促したり働きかける。
7	Change	<ul style="list-style-type: none"> ・外部への変化 <ul style="list-style-type: none"> ☆地域への公開（環境情報・研究経過） ☆環境技術で名を売る（企業と協働等） ・内部への変化 <ul style="list-style-type: none"> ☆節約（省エネ機器導入・資源節約等） ☆研究費増加（環境に対する研究への国の援助） ・それらを踏まえ学生が朝型に変わることで無駄を削減する。

投票結果は以下のようになりました。

G	タイトル	投票数
1	Eco University	7
2	阪大ecoブランド	3
3	知る→取り組む→発信する	7
4	大学エコパーク計画	12
6	大学発の提言作成	12
7	Change	13

VI. 報告会

11月26日に行われた各理事の方々への報告会では以下のことを中心に報告させていただきました。

- ・学生が具体的に何かを発信する機会の増加
- ・組織横断的な協力関係の構築
- ・市民等外部へ向けた発信する機会の増加

あくまで環境に特化したこととしての報告ではなく学生にコミュニケーションや発信の場を強化していただきたいという形で報告させていただきました。

その結果、各理事の方々からの返答を簡単にまとめさせていただくと以下のようにになりました。

- ・発信の場としてインターネット、ディスプレイの有効利用の促進
- ・学生持ち込み企画授業の導入の検討（現在ディスカバリーセミナーとして開講されているものの強化と認知度の拡大）
- ・学内ネットの規制緩和
- ・学内メールの恒久化検討（google の利用の検討を含む）
- ・実践センターにおける教養科目と CSCD の連携による学部、院縦断的な授業開講
- ・環境問題に関しては大阪大学にしかできないことはなにか検討（より多く学生側の意見を吸い上げる場の提供の検討）
- ・結果報告として本番のビデオ等を使ってインターネットやディスプレイを利用、配信

以上のようなことがあげられました。理事の方々には学生からの意見を多く取り入れたいとおっしゃられ、大学全体としては学生が「自主的に動く」方向へ動いていくことを強調されておりました。大学全体として動き出した途中であり、これからいかにして新しい授業の取り組みを学生に認知させるかを検討しているともおっしゃられました。

Ⅶ. 全体を振り返って

今回の会議では WWV in Japan の付随イベントとして開催され、学生の立場から地球温暖化問題をどうとらえているか意見を政府や大学側へ届けるために開催されたものでした。多種多様な学生が一堂に会し、大学側や政府に対する提言を議論の上まとめることは今まであまりなかったのではないのでしょうか。

イベント終了後、参加者の方へ感想を伺った結果ではぜひまた行いたいという声を多くいただきました。学生の方は少なからず意見を交換したり、提言したりする機会を求めているのではないのでしょうか。それはこと環境問題に関するだけでなく、様々な分野や問題においても同じものだと思います。本家の WWV in Japan が「市民」が政策決定の場に自らの声を届ける「方法」を示したように、このイベントが「学生」が大学へ自らの意思を伝える「方法」を示し、これからの大学環境の改善に役立つことができればと思います。

今日一日、忙しい中お集まりいただいた参加者の皆さま、開催にご協力、ご尽いただいた全ての皆さまに World Wide Views in Osaka 学生実行委員会一同、深く感謝を申し上げます。